

## V56b 2002年2月に出現した突発電波源は、天体ではなかったのか？

国吉 雅也、大師堂 経明、遊馬 邦之、松村 寛夫、市川 創、大久保 理基、澤野 昭博、岳藤 一宏、吉村 直也、新沼 浩太郎、坂井 南美、田村 陽一、土屋 純一、神吉 貴博(早稲田大学)

2002年2月15日から2週間に渡り赤緯  $39^{\circ}50'$  にアンテナを固定し、FRINGE観測を行った。すると赤経  $7^{\text{h}}40^{\text{m}}$  と赤経  $11^{\text{h}}58^{\text{m}}$  付近にFRINGEのような信号が現れた。その解析結果を本講演で報告する。

2002年2月15日に現れた信号(赤緯  $39^{\circ}50'$  赤経  $7^{\text{h}}40^{\text{m}}$ )は、16日、17日には現れず、18日、19日、20日に再び現れ、その日以降は現れることはなかった(2002年秋季年会 V39b)。その後の解析で、2月16日に1つ目の信号から赤経で約4h後  $11^{\text{h}}58^{\text{m}}$  にFRINGEのような信号が現れていることがわかった。その信号は17日には消え、18日~21日にかけて出現し、その後の観測では現れなかった。これが天体からのFRINGEなのかどうかを知るため、2つのことを検証した。それらの信号は日々4分ずれて観測されているか、観測された信号がスイッチングされているかどうか。その2つを検討したところ、信号の日々の出現時刻を最小2乗法でフィティングすると、観測された天体(CygA や  $1642+3948$  (VLA カタログ) 天体)と同様にほぼ4分づつはやまっていることがわかったが、観測された信号はスイッチングされていないことが明らかになった。それにより天体によるFRINGEではないと結論せざるをえなかった。しかし、なぜCygAなどの天体と同様に日々4分づつ移動したかは謎である。